

企画	タイプ	タイトル	発表者/著者	概要
企画	現地口頭	基調講演 星空案内人資格認定制度を活用した持続可能な 観光地域づくりの取組み—奄美与論島を事例に	澤田幸輝（与論島 夜空のおさんぽガイドの会）	与論島では、2019年度より和歌山大学と連携して、星空を地域資源とした持続可能な観光地域づくりに着手してきた。具体的には、星空案内人認定制度を活用した星空ツアーガイドの育成、防犯灯の改良を中心とした光害防止啓発活動、島に伝わる天文文化の継承活動、島民への天文教育普及活動を進めてきた。本報では、与論島で実践してきた7年間の活動を振り返るとともに、今後の活動目標について紹介する。
企画	現地口頭	目指せ星空保護区、国頭の星空	仲栄真智(国頭村役場商工観光課)	国頭村は通過型観光から滞在型観光への転換を図るため、2020年よりアストロツーリズムを推進している。具体的には星のソムリエの養成、星空ツアーの開発、光害啓発の取組み、地域を対象にした星空観望会の定期開催、有識者を招いた講演会、シンポジウムの開催など。2025年3月には米国に本部を置くDarkSkyに星空保護区認定の申請を行った。
企画	現地口頭	奥三河の星空—10年の歩み—	萩野 祐司、後藤 修一（奥三河☆星空の魅力伝える会）	奥三河地域において、星空案内人養成を軸に進めてきた星空活用の取組について、約10年の実践を振り返る。人材育成を通じて観望会などの活動が継続され、星空に地域が目向ける契機となった。地域イベントに星空を取り入れる事例が生まれた工夫や活用を広げる上で見えてきた課題を報告する。
企画	現地口頭	星空を“見る資源”から“語れる価値”へ— 島民ガイドとつくる沖永良部島の星空観光—	森岡 峻一、他職員一同(一般社団法人おきのえらぶ島観光協会)、澤田幸輝（沖縄女子短期大学）	沖永良部島では島民を対象に星空ガイド育成を行い、星のソムリエによる解説型ツアーや、季節・場所に応じた小規模分散型プログラムを造成している。さらに、小学校内プラネタリウムでの生解説付きプログラムや、星空ツーリズムを通じた与論島との広域連携にも取り組んでいる。
企画	オンライン	星空の活用を通じた地域活性化を目指して ～ 「星取県」の取組みと課題	池本 拓(鳥取県 環境立県推進課)	鳥取県では、美しい星空が見える環境の保全と活用を進めています。星空案内人講座の開催も、試行錯誤を繰り返しつつ、5年目となりました。これまでの取組の成果と今後の展望、担当者が感じている課題を報告します。

企画	現地口頭	沖縄島における星空を通じた地域連携	松本 剛 (元・琉球大学/おきなわ宙と星の会) 仲栄真 智 (国頭村/国頭村森林公園) 与那嶺 国彦 (沖縄県立糸満青少年の家)	沖縄では年間を通して多くの星が望める。筆者は星を楽しむ取組として大学の公開授業を活用し、地域の社会人対象の講座を開講した。最北部の国頭村では、自然ガイドとして活動する人が講座を受講し、生物も星も案内が出来る人材が育っている。南部の糸満市では定期的に星空観察会を開催している。これら地域連携活動を紹介する。
企画	現地口頭	「コミュニティが繋ぐ星空好きの輪」	松元理沙 (星空ツナガルコミュニティ コミュニティ マネージャー&移動科学館Science a GoGo) 増澤晃 (星空ツナガルコミュニティ Founder)	神津島村・東京都のサステナブル事業を起点に生まれた「星空ツナガルコミュニティ」。全国の星空ガイドがつながり、知見や想いを共有しながら星空の魅力を広げています。地域発の実践と人の輪で、星空を次の世代へ。その取り組みを紹介します。
企画	現地口頭	星空資源を活かしたホテル観光の可能性	三上 恵利香 (ホテルマハイナ ウェルネスリゾートオキナワ)	沖縄県本部町のホテルマハイナ ウェルネスリゾートオキナワでは、10年以上にわたり従業員による星空観察ツアーを実施しています。地域の星空団体との連携や、寄港するクルーズ船からの依頼など、これまでの取り組みを報告します。
企画	オンライン	八ヶ岳の星の魅力を生かした星空案内	跡部浩一 (スターラウンド八ヶ岳)	八ヶ岳南麓で、主に冬の集客を目的として始まったスターラウンド八ヶ岳。現在では、通年の星のガイドツアー「星空さんぽ」を每晚開催しながら、観光会社の主催するツアーの受け入れなども行っています。それを担っているのが、昨年で6回を数えた「星空案内人資格取得講座」。ここで育った星空案内人が、ガイドとして活躍しています。その取り組みについてご報告します。